

蜂谷家資料リスト(25件45点)

No.	資料名称	点数	年 代	形態	寸法 (縦*横, cm)	備 考
1	山岡鉄舟書扁額「情高意真」	1	江戸～明治期	扁額	本紙 31.7*103.2 扁額 44.7*129.5	鉄舟居士書、関防印(朱文橢円印)「处世若大夢」(「世に処(お)るは大夢の如し」李白)。白文方印「藤原高歩」、朱文方印「曠野号鉄舟」。 「情高意真」…情は高く意は真なり。(劉過『醉太平』。劉過(1154～1206)は南宋の高名な詩人。吉州(江西省)の人) 山岡鉄舟(1836～1888)は江戸開城のための勝-西郷会談の道をひらく。維新後は静岡藩権大参事、茨城県参事、明治天皇の侍従などを歴任。明治13年(1880)一刀正伝無刀流をたてる。海舟、高橋泥舟とともに幕末三舟と称された。江戸出身。本姓は小野。名は高歩。字は曠野、猛虎。通称は鉄太郎。別号に一楽斎。
2	國泰寺越叟書扁額「慎肅」	1	江戸～明治期	扁額	本紙 27.2*62.4 扁額 36.6*87.5	國泰越叟、関防印(朱文円印)「水月道場」。朱文方印「越叟」、白文方印「義格之印」。 越叟(1837～1874)は国泰寺の54世。明治7年(1874)国泰寺の住持となり、山岡鉄舟の援助で同寺を復興する。東京谷中に全生庵をひらいた。筑前(福岡県)出身。俗姓は松尾。額裏押さえはなく、全体が落ちないよう両端が紐で縛られている。
3	勝興寺沢映書扁額「雲披月満」	1	江戸～明治期	扁額	本紙 22.6*76.5 扁額 34.4*88.7	関防印(朱文方印)「清天美」。白文方印「雲莊」、白文方印「沢映」。 沢映(1845～1905)は勝興寺23世住職。西本願寺執行長等。22世広済の子。権少教正。妻は本徳寺大谷昭順(広淨)娘の玉瀧院妙寿(現滋賀県近江八幡市・福円寺・大谷光沢長女(広如上人養女)・王露院(※))。土山沢映。広輝。 (『神殿大観』HP/2025年6月6日アクセス・※『雲龍山勝興寺系譜』) 「雲披月満」は米芾の詩の一節。
4	軍隊手牒	1	明治33年(1900)3月1日	冊子	13.2*9.3	陸軍の軍隊手帳。勅諭、読法、誓文、軍隊手牒に係る心得などが印刷されている。手帳カバー右裏には朱書きで「蜂谷徳次郎」の記載あり。手帳の書き込みによると、富山県平民 蜂谷徳次郎は明治12年(1879)12月1日生まれ(徳平5男)。住所は富山県射水郡伏木町中道町5番地。 その他、所管：第九師団、部隊号：輜重兵第九大隊第一中隊、兵科：輜重兵、官等級：輜重輪卒、服役年期：明治32年(1899)12月1日～同35年(1902)3月31日、実役：明治33年3月1日(輜重兵第九大隊へ入隊、第一中隊へ編入)～5月31日(在営満期退営)。退営後も、大正5年(1916)の簡閲点呼(※)執行まで履歴欄の記載が続いている。 手帳カバーのポケット部分に折り畳まれた関係書類5枚(No.5～9)が入っている。 ※もと陸海軍で予備役・後備役の下士官・兵や補充兵を召集して行った点呼。
5	陸軍輜重輪卒組長適任証書	1	明治33年(1900)5月30日	一紙	24.1*30.6	輜重兵第九大隊長陸軍輜重兵少佐 従六位勲六等 小原久住→富山県平民 輜重兵第九大隊陸軍輜重輪卒 蜂谷徳次郎。 No.4軍隊手牒のポケット部分に折り畳んで入れられていた。

No.	資料名称	点数	年 代	形態	寸法 (縦*横, cm)	備 考
6	帰郷命令書	1	明治37年(1904) 10月23日	罫紙	27.8*19.9	動員担任官 輻重兵第九大隊補充中隊長 洲崎口(ふねへんに兼)→富山県射水郡伏木町 予備役輻重輸卒 蜂谷徳次郎。診断の結果、病により帰郷を命じられたもの。 No.4軍隊手牒のポケット部分に折り畳んで入れられていた。
7	簡閲点呼参会指令書	1	明治42年(1909) 7月1日	用紙	23.7*18.2	高岡連隊区司令官 藤井知行→32年徴集後援輻重輸卒 蜂谷徳次郎。「寄留口営麻布連隊区／本籍地 射水郡伏木町大字石坂町／寄留地 東京市神田区昌平河岸一／(中略)／右寄留地ニ於テ明治四十五年十月二十日迄簡閲点呼参会ノ件許可ス」とある。 簡閲点呼はNo.4参照。 No.4軍隊手牒のポケット部分に折り畳んで入れられていた。
8	大正五年度簡閲点呼連絡書	1	大正5年(1916) 8月13日	一紙	24.2*17.2	帝国在郷軍人会伏木分会から、8月18日に伏木小学校において行われる大正5年度簡閲点呼についての連絡書。「在郷軍人ニ賜リタル勅語」記載。 No.9(簡閲点呼に関する注意)と一緒にピンでくくって、No.4軍隊手牒のポケット部分に折り畳んで入れられていた。
9	簡閲点呼に関する注意	1		一紙	27.4*39.5	差出：高岡連隊区司令官 馬場儀雄。 No.8(大正五年度簡閲点呼連絡書)と一緒にピンでくくって、No.4軍隊手牒のポケット部分に折り畳んで入れられていた。
10	写真「中越丸」	1	明治24～大正4年(1891～1915)	額装	20.9*27.0 額35.8*43.7	中越丸の白黒写真。額に「中越丸」、「中越海運商会」の文字が入っている。 中越丸(1,498吨)は中越汽船会社所蔵船。明治24年(1891)購入。26年7月より満1ヶ年の契約で清商に賃貸。27年破約。33年土佐沖で沈没。沈没した中越丸の代船として1196吨の中越丸を35年購入。大正4年(1915)売却。(・正和勝之助著『越中伏木湊と海商百家』、1995年桂書房発行303p・高岡市史編纂委員会編集『高岡市史』下巻、昭和44年高岡市発行815p) 中越海運商会と中越汽船会社の関係については不明。
11	大正三年甲寅季略暦・七曜表	1	大正3年(1914)	用紙	12.1*6.1	「帝国海上運送火災保険株式会社」(現 損害保険ジャパン株式会社)の社名が入っているカード型の印刷物。
12	中越運輸株式会社給与辞令	1	大正6年(1917) 12月29日	一紙	20.7*27.1	中越運輸株式会社→手代 蜂谷徳次郎。大正7年(1918)1月1日から月給24円となる。 中越運輸株式会社は現在の伏木海陸運送株式会社。
13	中越運輸株式会社給与辞令	1	大正7年(1918) 8月1日	一紙	23.7*29.1	中越運輸株式会社→手代 蜂谷徳次郎。月給28円となる。 中越運輸株式会社は現在の伏木海陸運送株式会社。
14	汽船第五霧崎丸定期傭船契約証	1	大正6年(1917) 8月15日	冊子 (8丁)	26.7*19.1	大正6年8月15日、大日本帝国汽船第五霧崎丸の傭船主・奥村合資会社神戸支店と、傭船者・名古屋鈴木金右衛門との間において締結された傭船契約の証書。契約書の様式は、鈴木金右衛門石炭部用式。 定期傭船契約とは、一定の期間を定めて、船主が船長・船員を配乗させ輸送能力を備えた船舶による輸送サービスを傭船者に対して提供し、傭船者は期間(日割り等)を基準とした傭船料を対価として支払う契約のこと。
15	船舶売買証書等書類綴	1	大正7～8年 (1918～19)頃	罫紙綴 (37丁)	29.1*21.2	別紙参照 (21件25点)

No.	資料名称	点数	年 代	形態	寸法 (縦*横, cm)	備 考
16	帝国海上運送火災保険株式会社手帳	1	明治35～大正15年(1902～26)	冊子	12.6*7.0	帝国海上運送火災保険株式会社(1902～26)は帝国海上保険株式会社を前身とし、後に帝国海上火災保険株式会社(1926～44)になり、1944年に東京火災海上保険株式会社、帝国海上火災保険株式会社、第一汽罐保険株式会社の3社が合併し安田火災海上保険が発足。2020年より損害保険ジャパン株式会社に商号変更。 折り畳んだNo.17～19が挟まっていた。
17	移輸入塩荷役費見積書	1	大正8年(1919)8月16日	罫紙	26.6*19.2	越中国伏木港中越運輸株式会社→青嶋塩業株式会社。海運業伏木港中越運輸株式会社の罫紙を使用。 折り畳んでNo.16(帝国海上運送火災保険株式会社手帳)に挟まれていた。
18	金銭覚書	1	(大正期)	罫紙	26.6*19.3	海運業伏木港中越運輸株式会社の罫紙を使用。 折り畳んでNo.16(帝国海上運送火災保険株式会社手帳)に挟まれていた。
19	金銭覚書	1	(大正期)	用紙	17.4*11.6	裏面にメモ書きがされている。表面には富山県伏木港中越運輸株式会社→金沢専売支局伏木出張所倉庫係の積送案内書の様式が印刷されているが、未記入(中越運輸の角印は押されている)。 折り畳んでNo.16(帝国海上運送火災保険株式会社手帳)に挟まれていた。
20	富山県射水郡伏木町立伏木尋常高等小学校卒業証書	1	大正3年(1914)3月24日	一紙	26.3*36.4	富山県射水郡伏木町立伏木尋常高等小学校長 正八位勲八等 早苗西蔵→明治34年(1901)生 蜂谷孝吉。 裏面に朱文円印「向」あり。
21	富山県射水郡伏木町立伏木尋常高等小学校算術表彰状	1	大正3年(1914)3月24日	一紙	26.4*36.6	富山県射水郡伏木町立伏木尋常高等小学校長 正八位勲八等 早苗西蔵→尋常科第六学年 蜂谷孝吉。 裏面に朱文円印「向」あり。
22	富山県射水郡伏木町立伏木尋常高等小学校学業操行考査三等賞表彰状	1	大正3年(1914)3月24日	一紙	26.3*36.6	富山県射水郡伏木町立伏木尋常高等小学校長 正八位勲八等 早苗西蔵→尋常科第六学年 蜂谷孝吉。 裏面に朱文円印「向」あり。
23	蜂谷孝吉氏出征幟	1	昭和期カ	幟	383.0*71.0	上部に日の丸、その下に墨書「歓送／祝 出征 軍人 蜂谷孝吉君／株式会社 伏木魚菜市场」。
24	短冊(俳句・和歌)	21		短冊	—	俳句18枚、和歌2枚、その他1枚。 No.25(洗心斎主選和歌)と一緒に木箱(箱書き等がなかったため廃棄予定)に入っていた。
25	洗心斎主選和歌	1		切紙	25.7*26.3	表面：越中柳風吟「歌によす結ふきぬたのこと音哉」洗心斎主選、朱文方印「楽琴閑人」。 裏面：下人越中柳風。 No.24の短冊と一緒に木箱(箱書き等がなかったため廃棄予定)に入っていた。